

「のびのびキャンプ in 秋さんべ」

1 趣旨

秋の自然との親しむ野外活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、親子の親睦を深めるとともに、子供たちの基本的な生活習慣の確立を目指す。

2 事業の概要

(1) 期間

令和7年9月6日（土）～7日（日）＜1泊2日＞

(2) 会場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 協力

島根県健康福祉部青少年家庭課

(4) 対象

ひとり親家庭の親子

(5) 参加者

11家族28人 ※募集20家族50人（応募19家族49人：キャンセル8家族21人）

※キャンセル理由のほとんどは、新型コロナウイルス感染であった。

(6) 日程・内容

時間	9月6日（土）	時間	9月7日（日）
11:00	参加者受付	6:30	起床
11:30	はじまりの会、自己紹介、諸連絡	7:20	クリーンアップタイム
12:20	昼食（ビュッフェ）	7:40	朝食（ビュッフェ）
13:30	交流の家発	8:40	退所点検
13:40	三瓶ブルーベリー農園 着 ブルーベリー狩り、栗ひろい	9:15	アウトドアクッキング ～ダッチオーブンで作るブルーベリーパイ
14:50	三瓶ブルーベリー農園 発	11:30	おわりの会
15:00	三瓶東の原 着 観光リフト、東の原展望テラス	12:00	解散
16:20	三瓶東の原 発		
16:30	交流の家 着		
17:10	夕べのつどい		
17:30	夕食（ビュッフェ）		
18:15	入浴		
19:00	【親】座談会		
	【子】創作活動		
20:30	入浴、就寝準備、就寝		

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

① 三瓶周辺地域の教育資源を生かした秋ならではの体験活動の設定

本事業では、主に以下の2点を意識してプログラムを設定した。

- ◆ 当所が所在する三瓶地域の豊富な教育資源を生かした季節感のある自然体験活動を提供すること。
- ◆ ひとり親家庭であることから、親一人では子供たちを連れて行くことができにくく、体験する機会が少ないと思われる活動を取り入れること。
また、上記2点を踏まえて2つのメインプログラムを設定した。

【ブルーベリー狩り】

ブルーベリー農園の事前踏査の結果、ブルーベリー狩りだけでは2時間のプログラムとして成立させることが難しいと判断し、同じ農園内での栗ひろいとの2本立てのプログラムとして1時間に短縮した。さらに、後半の1時間は、近隣の「東の原観光リフト（展望テラス）」体験として新たに設定した。こうしたプログラムのアレンジができたのも、当所からバスで片道5分程度の極めて近距離にある施設を活用したことによるものである。

【アウトドアクッキング～ダッチオーブンで作るブルーベリーパイ～】

今回の事業のプログラムの一つである「ブルーベリー狩り」に関連付けた体験活動を提供するため、ブルーベリーを使ったアウトドアクッキングを企画した。材料には、三瓶ブルーベリー農園で購入したブルーベリーを使用することにより、参加者がより一層体験活動のストーリー性を感じられるようにした。また、パイ生地は市販の冷凍品を使用して調理手順を少なくするとともに、ダッチオーブンを使用することによって参加者が手軽にキャンプ気分を味わえるようにした。

② 当所スタッフのファシリテートによる「座談会」

昨年度の本事業では、子供たちが別会場で活動している間に、親学ファシリテーターによる親学プログラムを実施した。今年度は、「座談会」という形で、当所スタッフがファシリテーターを務めることによって、よりザックバランな雰囲気の中で、親同士がポジティブなテーマについて語り合いながら交流を深めることをねらった。その具体的な手立てとしては、5～6人のグループを2つ作り、「4つの窓」というアクティビティを通して、「キャンプネーム」、「自分のセールスポイント」、「マイブーム」、「一番ホッとする時」の4つについて紙に書き、お互いに見せながら紹介し合う手法をとった。

(2) 運営（連携）及び広報のポイント

① 運営（連携）のポイント

本事業では、参加者の家庭事情への配慮や心情に寄り沿った支援など、他事業より留意事項が多いため、本事業への参加経験があり、かつ、事業の趣旨や支援に当たっての留意事項を十分に理解している法人ボランティアに直接声をかけてサポートを依頼した。

また、参加する子供の実態に応じた支援の充実のため、島根県公立学校職員採用2年目の職員を対象とした研修（フォローアップ研修）の1つに登録し、希望する教職員がボランティアスタッフとして活動できる機会を設けた。（結果的に申込みはなかった。）

② 広報のポイント

今年度も、島根県健康福祉部青少年家庭課ひとり親支援グループに広報活動への協力を依頼し、島根県内各市町村の子育て支援関係各課を通して本事業の開催要項やチラシを配布するとともに、メールマガジン等に本事業のお知らせを掲載することにより、多くのひとり親家庭保護者に本事業の情報が届くようにした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	91	9	0	0
プログラム	82	18	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

＜肯定的な意見＞

- 移動距離がほどほどで、三瓶をじっくり楽しめました。
- ほどよいアクティビティの数でした。三瓶でブルーベリー狩りというのが新鮮でした。
- 前からリフトに乗りたかったので、子供と一緒に乗れて本当によかったです。
- 子供も親も楽しめてよかったです。ふだんできないことができてよかったです。
- スタッフさんがとても親切丁寧で、安心して活動することができました。

《提案や要望などの意見》

- 夕食からお風呂、夜のプログラムまでの時間が少しタイトだと思いました。
- 女性のスタッフさんが一人おられるとなおよいです。
- 梨狩りやブドウ狩りもしてみたいです。

5 成果と課題

＜成果＞

○ ひとり親家庭親子のニーズを満たす体験活動を提供できた。

1日目のプログラムのアレンジが功を奏し、「栗ひろいが楽しかった。」「リフトに初めて乗せてやるのができて本当によかった。」「展望テラスからの景色がすばらしかった。」など、参加者から高評価を得た。特に「東の原観光リフト」（2人乗り）は、メインプログラムではなかったものの、子供が2人以上いる家庭にとっては、スタッフが親の代わりに同乗することにより、初めてリフト体験を味わうことができた子供もいた。また、ひとり親のため、ふだんは親子と一緒に写真に写ることが難しいが、本事業においては、スタッフに写真撮影を頼み、親子一緒に写真を撮ってもらえることを喜んでおられる姿が多く見られた。（この期間、広島国際大学からの社会教育実習生3人が運営スタッフとして関わることができたため、各家庭へのニーズ、特に子供に対して十分に寄り添うことができた。）

参加者の声に「ふだんできない体験ができた。」とあるように、参加者の満足度が高い秋の自然と親しむ体験活動を提供することができた。また、「なかなか母子ではできない体験だった。」などの声にあるように、子供の活動を見守る親が一人しかいないという困り感をもつひとり親家庭に対して、ニーズが高い体験活動を提供することができた。

○ 活動を通して子供同士、親同士の活発な交流を生み出すことができた。

「座談会」は、アクティビティを通しながら楽しい会話で大変盛り上がり、ねらいどおりの時間となった。さらに、「明日はお互いにキャンプネームで呼び合おう」という仕掛けをし、翌日のプログラムへのストーリー性を持たせた。参加者からは、「親子別のプログラムを満喫しました。もっと楽しみたいくらいです。」などの声が聞かれ、親同士の語らいの場としてのねらいを十分に達成することができた。

また、今回の参加者は全てが母子家庭であり、母親と子供が1人又は2人の家庭が多かった。未就学児も2人おり、親が子供の様子を気かけながらの作業は厳しいと判断したため、2家庭で1つの班とし、1枚のブルーベリーパイを作ることにした。このことにより、親の負担軽減につながただけでなく、子供が火を管理して親がブルーベリーを煮詰めたり、親子で分担して活動したりする様子が見られるなど、子供同士、親同士の活発な交流を生み出すことができた。さらに、前日の「座談会」において、それぞれの親が自分のキャンプネームを考えて、そのキャンプネームで翌日は呼び合うことを仕掛けておいたことにより、明るく和やかな雰囲気の中でブルーベリーパイ作りを行うことができた。

＜課題と今後の対応＞

▲ 昨年に比べ、申込数が減った。

このことについては、当初から想定していた。その大きな要因として、来年度から当所の大型バスが廃止になることを鑑み、1年前倒しで例年行っている松江市駅及び出雲市駅までのバス送迎の提供をとりやめたことが考えられる。今後も同様の対応になると思うが、課題ととらえる一方、今年度ほぼ募集定員の申込数があつたことを前向きに捉え、その上で提供するプログラムを再考していきたい。

▲ 活動時間と休憩・ゆとりの時間とのバランスを考慮した日程にすること。

アンケート記述の中には、「夕食から入浴、親子別プログラムにかけてのスケジュールがタイトであった。」という意見があつた。夜に1つのプログラムを組み入れるためには仕方がないことであると考えるが、プログラムの内容を吟味した上で、参加者にとって無理のない日程となるよう、十分な活動時間と休憩・ゆとりの時間とのバランスを考慮した日程を検討する必要がある。また、来年度以降の本事業の実施についても、ひとり親とりわけ母親ひとりでは子供に体験させる機会をもちにくいアウトドア系の活動イベントへの要望が多いという実態を踏まえてプログラムを設定したい。また、自然や観光などの地域資源豊富な三瓶の強みを生かして、当所周辺を活動場所とすることにより、活動時間と休憩・ゆとりの時間の確保の両立を図っていきたい。

（担当：企画指導専門職 毛利 寿）